

国語科学習指導案

日時 平成15年8月29日(金) 5校時

学級 3年A組(男子22名 女子18名 計40名)

授業者 久慈市立侍浜中学校 楠美 富栄

1 単元名・教材名・作品名

(1) 単元名 「三 情報社会を見つめる」(光村3)

(2) 教材名

① 生活を見つめ、自分の考えを確かめよう

『マスメディアを通した現実世界』(本時)

『パソコン通信というコミュニケーション』

② メディアとのかかわりを見直そう～立場を決めて討論する～

③ わたしたちの未来を考えよう～構成を工夫して意見文を書く～

2 単元について

(1) 単元・教材について

現代社会にはラジオ・テレビ・新聞・雑誌・パソコン・携帯電話などさまざまなメディアが存在している。これらのメディアから発信される情報は膨大な量であり、社会生活を送る上でメディアから受ける影響も大きい。このような「情報社会」において、私たちは、自分に必要な情報を取捨選択したり、その事実を見極めたりする力が必要とされてくる。本単元は、情報の受け手として、マスメディアからの情報が現代社会で果たす役割や影響を認識し、更には、パソコン通信などによる情報発信の主体として、自己の表現に対する責任を自覚することをねらいとしている。

本単元は、情報の受信・発信者としてのあり方を考えさせる『マスメディアを通した現実世界』『パソコン通信というコミュニケーション』という2つの作品から構成される「生活を見つめ、自分の考えを確かめよう」と、それら2作品の学習を通して考えさせられたメディアとのかき合い方を参考に、メディアについて話し合う「メディアとのかかわりを見直そう」、更に深まった考えを、構成を工夫しながら意見文として書く「私たちの未来を考えよう」という3つの教材で構成されている。

(2) 作品について

本作品『マスメディアを通した現実世界』は、マスメディアの役割とその影響、情報の受け止め方について述べた論説文である。抽象的な表現が多く、「地球村」「共有性の保証人」「現実の鏡」など筆者独特の比喩的な表現があり、一見難解そうに見える文章だが、大きな展開に着目して読むことで、全体の要旨や筆者の主張が克明に浮かび上がってくる文章である

そこで、捉え方は様々あるが、本実践では、この文章を序論・本論・結論の3部構成と捉え学習を進めていく。23の形式段落から成り立つこの文章は、各形式段落の最初に置かれている効果的な接続詞や指示語等によって、文章の展開、筆者の考えが無理なく述べられている。序論は、初の日米間テレビ宇宙中継でケネディ大統領の死の報道に接したときの自分の体験から話題を提示し、本論では、ニュースの報道の仕方や観光地の紹介など、身近なところから問題点を浮かび上がらせている。いずれにおいても、豊富な具体例とその解説を軸に、論が展開されており、学ぶべき点が多い。そこで、このような論理構成を分析的にたどっていくことで、論理の展開の仕方や効果的な表現の工夫の仕方について学ばせていきたい。

(3) 生徒について

授業に対して積極的であり、意見を活発に交換し合うことのできる学級である。また、社会的事象や既成の概念に対して、自分なりの独特の考えを述べることのできる生徒が多い。

反面、説明的文章は文学的文章よりも読む意欲に欠け、論理的思考を展開する力に劣る。説明文の、問題提示から例示、そして結論までの道筋を的確に整理することが苦手である。また、筆者の主張に対しての、自分の意見をもっている論理的な文章に構成するまでには至っていない。また、全体の大まかな内容を捉えることはできるが、段落相互の関係を正確に読み取ることは難しいと考える。

以上のことを留意して、話し合い活動を中心に、段落相互の關係に着目させ、適切な内容把握ができるように、支援していきたい。

(4) 指導の構想

本実践では、本単元のねらい、生徒の実態、また学習定着度状況調査の結果より、文章の構成や論旨の展開を正確に捉えて、内容の理解や自分の表現に役立てることを通して論理的思考を育成することを目標とし、「文脈中の語句の意味や用法」や「文章の構成や論理の展開」を捉えさせることを重視していきたい。そこで、学習指導要領の以下3点の内容を中心的な目標とする。

C 読むこと

- ア 文脈中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること
- イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。
- エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。



筆者の論理の展開をとらえることを通した、論理的な思考力の育成

さて、「読むこと」とりわけ、説明的文章を読むことの学習指導においては、文章の要旨を支える論理の筋道を明らかにし、文章の内容を的確に理解するとともに、筆者を意識した説明の工夫や説得の方法などを捉え、自分の表現に役立てたり、自ら考えようとしたりする態度を高めることが期待されている。そこで、従来の説明的文章の指導である、形式段落ごとの要点をまとめ、書かれている事柄や結論を理解するだけの学習から脱却し、「どのように書かれているのか」といった論理の展開に着目して理解することの面白さを味わいながら、「読む力」を育成していきたいと考えた。

また、論理的思考力の育成には、言語の能力が深く関わってくる。接続詞や重要語句などに注目させながら、文の組み立てと文章の内容との関係をつかみ、段落と段落との論理の展開を吟味・分析することにより、論理的思考を育成することができると思われる。また、論理的に構成された説明文の内容を読んで、一つ一つの言葉に注目しながら、筋道立てて捉え、書きまとめる力を身につけることにより、論理的思考力の基礎を築くことができると考えられる。

更に、説明的文章の指導においては、読むことと書くことを密接に関連させ、読むことの学習で培った力が書く力を育成することにつながっていくよう意図的、計画的に指導する必要がある。また、逆に書くことの学習で培った力が読む力を育成することにつながっていくように学習を展開させることも必要である。

そこで、次ページのプロセスを辿り、目標に迫りたい。

ステップ1 (探る)	キーワードをもとに自分で論を展開してみる。(書くこと)
ステップ2 (考える)	教材文の論の分析 (読むこと) (話すこと・聞くこと) 自分の論と教材文との対比 (話すこと・聞くこと)
ステップ3 (確かめる)	各自の文章の再構築 (書くこと)

具体的には、本単元を四次構成とし、第一次では、既習の知識を用いて、「携帯電話との付き合い方」という主題で意見文を書かせ、個々のレディネスを図るとともに、論の展開の仕方についての意識を高める導入学習を行う。次に、第二次では、「マスメディアを通じた現実世界」から、筆者の論理の展開の仕方や構成の仕方を学ぶために、文章構成図やイメージマップ等を作成し、様々な視点で文章の分析をおこない、文章の特徴について話し合う。第三次では、学んだ論理の展開の仕方を、より自分のものとして体得するために、文章構成図を作成し、第一次で書いた説明文を再構築させる学習に取り組ませる。そのことにより、生徒が学習内容を効果的に身につけることができたかどうか、つまり、本当の意味で「わかる」ことができたのかどうか、実感することができると思われる。更に、第四次では、「パソコン通信というコミュニケーション」についての学びを通して、本単元での学習内容の確立を図りたい。

3 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

- ① メディアとの関わり、メディアの有効な活用について自分の考えを持とうとする。
- ② 話し合いの中で、考えを広げ、深めていこうとしている。
- ③ 相手が理解しやすい意見文にまとめようと努力している。

(2) 話すこと・聞くこと

- ① 話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して話したり、聞いたりすることができる。

(3) 書くこと

- ① 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の工夫などについて、自分の表現に役立てることができる。

(4) 読むこと

- ① 論理の展開の仕方や表現の工夫などについて、自分の表現に役立てることができる。
- ② 文中の語句の効果的な使い方について理解し、文章の展開に即して筆者の考えを捉えることができる。
- ③ 筆者の論理の展開を理解し、筆者の主張を自分自身の体験と重ねて捉えることができる。
- ④ 文章を読んで、情報社会への関わり方について考え、自分の意見を持つことができる。

(5) 言語事項

- ① 比喩的な表現や抽象的な語句について理解を深めることができる。
- ② 段落の役割や接続の関係に注意して文章を読むことができる。
- ③ 目的に応じた文章の形態や展開の違い気づくことができる。

4 指導計画と評価規準・判断基準

※ 関: 関心・意欲・態度 話: 話すこと・聞くこと 書: 書くこと 読: 読むこと 言: 言語事項

次	評価規準	時	学習活動	判断基準
第一次	<p>書 自分の考えが、効果的に説得力を持って相手に伝わるよう、構成を工夫して意見文にまとめている。</p>	1時	<p>「メディアとの付き合い方」をテーマに、「携帯電話との付き合い方」という主題で意見文を書く。</p>	<p>関 テーマに興味を持ち、文章の構成を意識しながら進んで書こうとしている。</p> <p>書 文章の構成や表現を工夫し、より効果的で説得力のある文章が書くことができる。</p> <p>言 接続語や、指示語、段落構成等を意識して書くことができる。</p>
第二次	<p>関 メディアとのかかわりについて興味・関心を持ち、筆者の論理の展開の仕方に注目しながら、文章を読み進めようとしている。</p> <p>読 筆者の個性的な文章構成の工夫や論理の展開の仕方を捉え、事例や事実、筆者の意見等を整理しながら筆者の主張を的確に読み取るとともに、自分の表現に役立てる。</p> <p>話 自分の考えを的確に話したり、相手の立場や考えを尊重して聞いたりしている。</p>	1時	<p>① 「マスメディアを通じた現実世界」の全文を通読し、形式段落の文頭に番号を書く。</p> <p>② 効果的で説得力のある文章とは何か、文章の構成や表現の工夫に対する自分の考えを述べる。</p> <p>③ 辞書を使って、文脈に沿った意味をまとめ、確認し合う。</p>	<p>関 学習の目的と方法を理解し、教材に興味を持ち、進んで読もうとしている。</p> <p>読 比喩表現や抽象的な表現の意味の意味を理解し、筆者の言葉の定義をまとめることができる。</p> <p>話 文中の語句の定義について、意見を交換することができる。</p> <p>言 文脈に沿って、語句の意味を理解するとともに、形式段落に分けることができる。</p>
		2時	<p>「マスメディアを通じた現実世界」について、班ごとに、形式段落の概要をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">概要</p>	<p>関 積極的に話し合いに参加し、概要をまとめようとする。</p> <p>話 自分のまとめたことをもとに、班内で意見交換をし、自分の考えを確かめることができる。</p> <p>読 文章の展開に即して内容を捉え、大事な部分を取り上げることができる。</p>

第二次

言 文章中の特徴的な「言葉の意味」や抽象的な語句に留意し、文章構成に示された事例や考えを理解している。

3時	<p>指示語を中心に、1・2文から成る形式段落の位置と段落の意味を考えながら文章の構成を分析し、文章構成図を作成する。</p> <p style="text-align: center;">文章構成図</p>	<p>読 文章を大きく3つに分け、そこに示された事例や解説部分と筆者の論述部分や考えを把握することができる。</p> <p>言 段落相互の関係に注目し、相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気づくことができる。</p>
4時	<p>文章の構成や論理の展開について特徴を話し合う。 「論述と論述を支える例示や解説を中心に分析し、イメージマップを作成する。」</p> <p style="text-align: center;">イメージマップ</p>	<p>読 イメージマップを作成する中で、論述と論述を支える例示や解説を捉え、説明の工夫や説得の方法を捉えることができる。</p> <p>言 段落相互の関係に注目し、相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気づくことができる。</p>
5時	<p>文章の構成や論理の展開について特徴を話し合う。 「接続する語句を中心に分析し、各形式段落の役割を考える。」</p> <p style="text-align: center;">段落役割</p>	<p>読 接続する語句などに注目し、段落相互の関係やその役割を説明することができる。</p> <p>言 段落相互の関係に注目し、相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気づくことができる。</p>
6時	<p>各形式段落を分解して、効果的に主張が伝わるよう、自分なりに再構成させる。</p> <p style="text-align: center;">段落再構成</p>	<p>読 自分の主張が明確に、より効果的に伝わるように、構成のしかたや展開を工夫することができる。</p> <p>話 自分のまとめたことをもとに、班内で意見交換をし、自分の考えを深めることができる。</p>
7時(本時)	<p>文章の構成や論理の展開について特徴を話し合う。 「各形式段落の配置について、段落を分解して再構成させる活動を中心に分析する。」</p> <p style="text-align: center;">段落再構成</p>	<p style="text-align: center;">(判断基準は別紙)</p>

第三次	<p>関 意見文にまとめることで、自分の立場・主張を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けようとしている。</p> <p>書 互いの文章を読みあい、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方など、様々な観点から相互に検討し、自分の表現に役立てている。</p>	1時	<p>構造図を作成し、第一次で作成した意見文を推敲する。</p>	<p>読 筆者の論理の展開の仕方を、自分の表現に生かすことができる。</p> <p>書 自分の主張が明確に、より効果的に伝わるように、構成のしかたや展開を工夫することができる。</p> <p>言 指示語や接続語、比喩表現など、語彙を工夫して文章を書き表すことができる。</p>
		2時	<p>構造図と意見文を交流し合い、効果的に主張が伝わる構成の仕方や論理の展開について話し合う。</p>	<p>書 書いた文章をお互いに読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方を、自分の表現に役立てることができる。</p>
第四次	<p>関 社会生活に関心を持ち、パソコンの有効な活用について自分の意見を持つようとしている。</p> <p>読 語句に注目しながら、文章の展開に即して筆者の考えを捉え、自分自身の体験と重ねて考えている。</p>	8時	<p>「パソコン通信というコミュニケーション」について各形式段落の要点をまとめる。</p>	<p>関 教材に興味を持ち、進んで読み、文中の語句の意味を考え、要点をまとめようとしている。</p> <p>読 文章の展開に即して内容を捉え、要点をまとめることができる。</p> <p>言 文脈に沿って、語句の意味を理解するとともに、形式段落に分けることができる。</p>
		9時	<p>「パソコン通信というコミュニケーション」について構造図を作成し、交流し合う。</p>	<p>読 そこに示された事例や解説部分と筆者の論述部分や考えを把握しながら、構造図を作成することができる。</p> <p>言 段落相互の関係に注目し、相手や目的に応じて話や文章の形態や展開の違いがあることに気づくことができる。</p>

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 真剣に他者の意見に耳を傾け、意欲的に話し合いに参加することができる。
- ② 筆者の論と自分なりの論を比較し、より良い論の展開の仕方について考えることができる。
- ③ 筋道を立てて根拠をあげながら、自分の意見を述べるすることができる。

(2) 指導構想

本時は、「より効果的な、論理の展開の仕方を考えよう。」という学習課題のもと、討論会を行う。生徒は前時まで、6つのグループ（頭括式3グループ・双括式3グループ）に分かれ、それぞれの構成に従い、自分たちの論理の展開の仕方について、考えを検討してまとめてきている。

本時では、6グループのうち2つのグループをモデルグループとして、それぞれが筆者の論の展開の仕方と比較し、どこが優れているか、考えを主張し合い、残りの4グループを中心に、論の展開の長短を議論し合うよう進めていく。話し合いの仕方については、シンポジウムのバズセッションの形をとり、今回は司会を教師が務めることとする。

さて、モデルグループには、聞き手に分かりやすく説明できるように、視覚に訴える具体的な資料を用いさせて話し合いができるようにしたい。筆者の論も視覚的に明確にし、それぞれの違いがクローズアップできるようにする。また、それぞれのグループの考えに対して、様々な角度から筆者の論と比較検討される中で、より適切で説得力のある論理の展開の仕方に接することができよう、様々な視点を与えたい。また、授業後半では、論理の展開の仕方であげた点・考えた点等を記録用紙に書かせる中で、筆者の論の素晴らしさに気づかせたい。さらに、自分の表現として次時で生かせるように、用紙に記入するだけでなく、実際に今後の学習の参考となる表現の仕方について意見交流させることにより、表現する技能・意欲を高めていきたい。

(3) 評価観点と判断基準

観点	A	B	C
関心・意欲・態度	メモを取りながら、真剣に他者の意見に耳を傾け、積極的に意見を述べたり、質問したりすることができる。	真剣に他者の意見に耳を傾け、意欲的に話し合いに参加することができる。	班内で、感想を述べたり、気づいたことを話したりするように促す。
読むこと	筆者の論と自分なりの論を比較し、筆者の論の特徴やその素晴らしさに気づき、より良い論の展開の仕方について考えることができる。	筆者の論と自分なりの論を比較し、筆者の論の素晴らしさに気づき、論の展開の仕方がわかる	仲間の意見をもとに、筆者の論の展開に線を引かせる。
話すこと・聞くこと	筋道を立てて根拠をあげながら、適切な言葉で自分の意見を述べたり、質問・応答したりすることができる。	根拠をあげながら、適切な言葉で自分の意見を述べるができる。	話し合いの中で、話したいこと・質問したいことなどを箇条書きでプリントに記入させる。

(4) 展開

過程	学習活動	教師の活動と支援	指導の工夫・留意点 《評価方法》
導入 3分	1 前時の確認をする。 論理の展開の新構築 2 学習課題を確認する。	・前時に行った学習をまとめたプリントや本時に使用するプリントを配布する。	バズセッションの隊形をとる。 発表用紙 記録用紙(評価付き)
より効果的な、論理の展開の仕方を考えよう。			
展開 45分	3 モデルグループは発表の準備をし、他のグループは、モデルグループの発表プリントを見て、質問を考える。 4 頭括式グループの発表 5 グループでの話し合い、質疑応答・意見発表 6 双括式グループの発表 7 グループでの話し合い、質疑応答・意見発表 8 筆者と2つのグループの展開の仕方の違いについて考えたことを記録用紙にまとめる。 9 記録シートに記入したことを発表し合う。	・発表グループ指導 ・シンポジウムの司会 ・パネリストが筆者の論と比較しながら発表するように助言する。 ①例示・解説の場所の妥当性 ②筆者の論の展開で参考にしたところ。 ③筆者の論の展開で納得いかなかったところ。 ・聴衆は、筆者の論との違いを聞き分けるよう助言する。 ・グループ内で話し合わせることを通して、全員が気づく場とする。 ・期間指導を行う。 ・できる限り、視覚的に発表できるように助言する。	・OHP準備 ・筆者論と2つの論との違いを視覚的に明確にする。 ・話の論理性や分かりやすさ・説得力の強さが、話す順序を変えることでどう変化するかを明らかにさせ発表させる。 《発言:明確な説明であったか。意見・質問は適切であったか》 ・質疑応答で反応がないように、机間指導を行う。 《プリント:それぞれのグループの発表の内容の妥当性について》 《発言:筆者の構成の素晴らしさに気づいたか》
終結 2分	10 自己評価を書く。 11 次時の予告を聞く。	・評価の観点を示し、評価カードに自己評価させる。 ・次時の学習内容を確認する。	・評価は、ABC方式。 《プリント:観点 ・話し合いに臨む態度 ・論の違いが分かるか、説明できたか、聞き分けたか。》